



企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて

(2019年3月実施)

百十四銀行（頭取 綾田 裕次郎）は、香川県内民間企業の景況感に関するアンケート調査を実施し、その結果をまとめましたのでお知らせします。

【調査要領】

調査対象	香川県内に本社または主工場をもつ企業：626社
調査方法	郵送によるアンケート方式
調査時期	2019年3月8日～2019年3月29日
回答状況	有効回答企業数：313社 有効回答率：50.0%
調査委託先	一般財団法人 百十四経済研究所

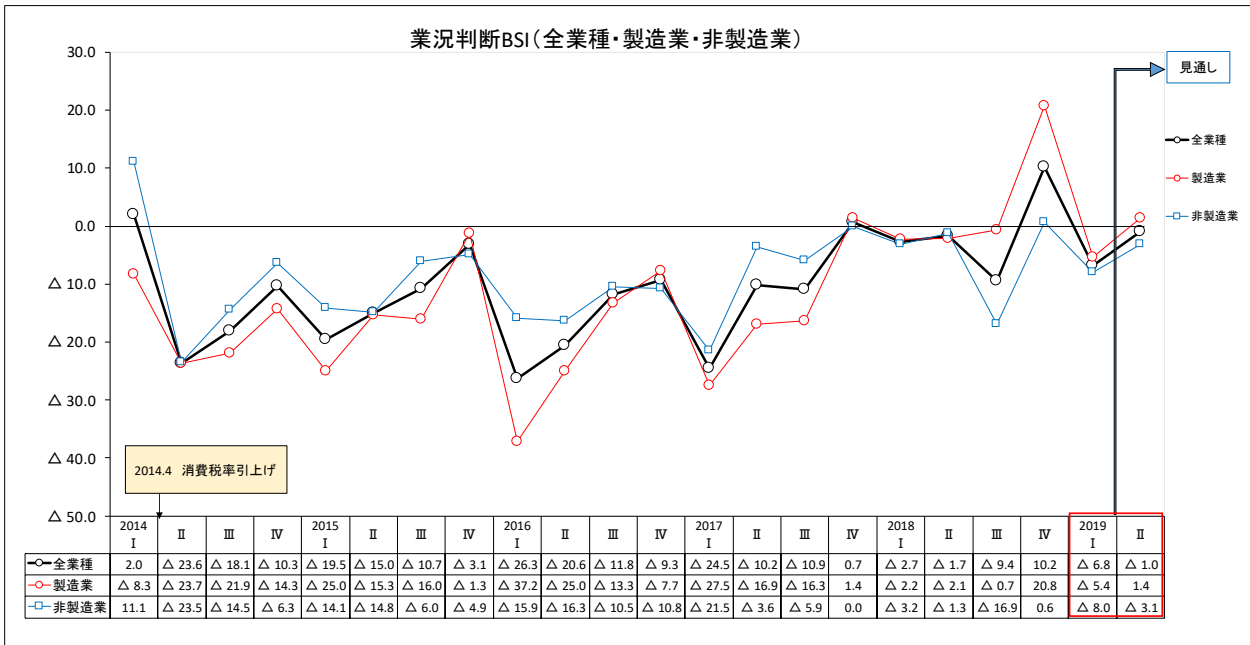
香川県内企業経営動向調査による景況感の現状および見通しについて (2019年3月実施)

～景況感は低下するも底固く推移する見通し～

1. 全体の概況

今期(2019年1月～3月期)県内企業の業況判断BSIは、前期の10.2から17.0ポイント低下して△6.8となった。製造業は、前期の20.8から26.2ポイント低下して△5.4となった。非製造業は、前期の0.6から8.6ポイント低下して△8.0となった。

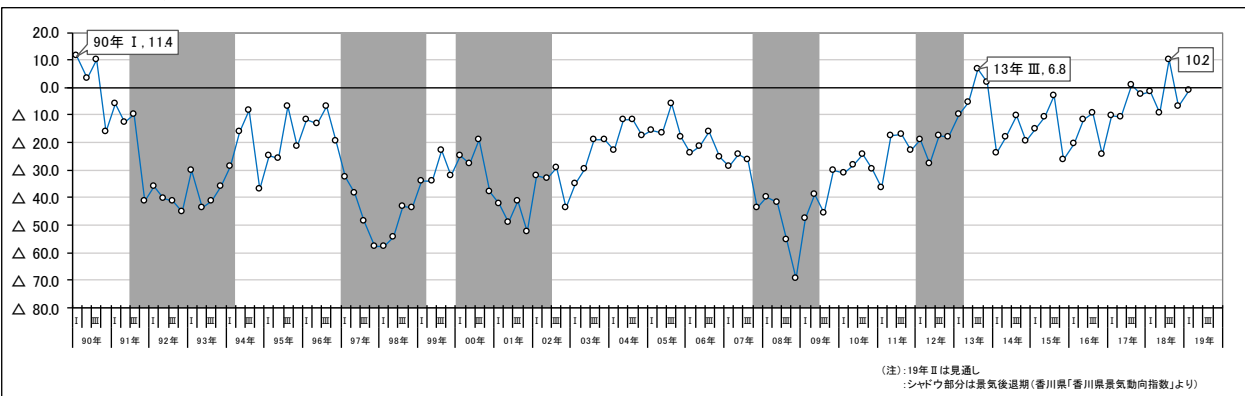
来期BSI(全業種)は、今期の△6.8から5.8ポイント上昇して△1.0となる見通し。製造業は、今期比6.8ポイント上昇して1.4、非製造業は今期比4.9ポイント上昇して△3.1となる見通しである。



業況判断BSI(全業種・製造業・非製造業)

業種	実績												見通し	
	2016 I	II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	IV		
全業種	△ 26.3	△ 20.6	△ 11.8	△ 9.3	△ 24.5	△ 10.2	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	△ 9.4	10.2	△ 6.8	△ 1.0
製造業	△ 37.2	△ 25.0	△ 13.3	△ 7.7	△ 27.5	△ 16.9	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	△ 0.7	20.8	△ 5.4	1.4
非製造業	△ 15.9	△ 16.3	△ 10.5	△ 10.8	△ 21.5	△ 3.6	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 16.9	0.6	△ 8.0	△ 3.1

業況判断BSI 長期推移



2. 業況判断 BSI

(1) 今期 (2019年1月～3月期) 実績

今期 BSI は、年末需要の反動減と暖冬の影響が重なり中国経済の減速が一部業種に影響して、前期の 10.2 から 17.0 ポイント低下して△6.8 となった。

業種別でみると、製造業は前期の 20.8 から 26.2 ポイント低下して△5.4 となった。原材料価格等コストの上昇が響いて基礎素材型は前期比 28.5 ポイント低下。加工組立型は中国経済減速の影響もあって前期比 8.4 ポイント低下。生活関連型は暖冬の影響で受注高減少となり前期比 37.7 ポイント低下した。

非製造業は、前期の 0.6 から 8.6 ポイント低下して△8.0 となった。建設業は公共工事等の年度末受注が好調で上昇するも、卸売・小売業は年末商戦の反動減とともに、暖冬が季節商品売上高に大きく響き前期比 26.2 ポイント低下して△18.0 となった。

(2) 来期 (2019年4月～6月期) 見通し

来期 BSI は、国内需要増加を背景に今期の△6.8 から 5.8 ポイント上昇して△1.0 となる見通し。

業種別でみると、製造業は、今期の△5.4 から 6.8 ポイント上昇して 1.4 となる見通し。加工組立型は国内外需要の減少に加え中国経済減速の懸念もあって低下するものの、生活関連型では生産、受注が増加して大きく上昇する見通しである。

非製造業は、今期の△8.0 から 4.9 ポイント上昇して△3.1 となる見通し。建設業は受注減少で低下するものの、卸売・小売業、運輸業、サービス業等では行楽シーズンを迎え瀬戸内国際芸術祭等への期待感もあって上昇する見通しである。

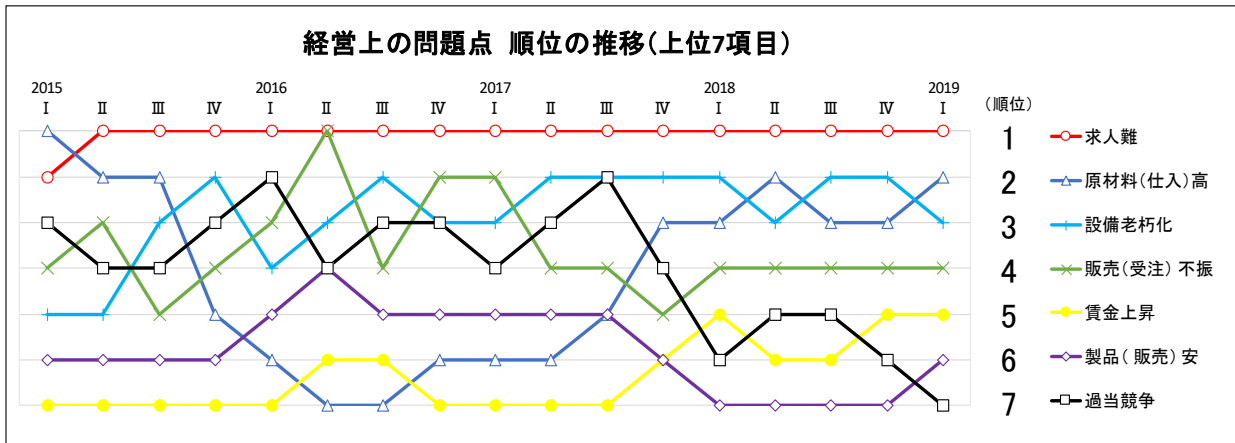
業種別業況判断 BSI

業 種	実 績												見通し	
	2016 I	II	III	IV	2017 I	II	III	IV	2018 I	II	III	IV	2019 I	II
全業種	△ 26.3	△ 20.6	△ 11.8	△ 9.3	△ 24.5	△ 10.2	△ 10.9	0.7	△ 2.7	△ 1.7	△ 9.4	10.2	△ 6.8	△ 1.0
製造業	△ 37.2	△ 25.0	△ 13.3	△ 7.7	△ 27.5	△ 16.9	△ 16.3	1.4	△ 2.2	△ 2.1	△ 0.7	20.8	△ 5.4	1.4
基礎素材型	△ 24.0	△ 25.9	4.2	0.0	0.0	3.7	0.0	△ 12.0	△ 4.5	△ 8.5	6.5	20.8	△ 7.7	△ 3.8
加工組立型	△ 21.1	△ 15.8	△ 22.2	△ 21.1	△ 16.7	△ 5.6	△ 10.5	5.6	9.1	10.5	9.5	22.7	14.3	△ 9.3
生活関連型	△ 55.9	△ 29.4	△ 21.2	△ 5.7	△ 51.4	△ 36.8	△ 31.4	10.0	△ 6.6	△ 5.5	△ 14.8	19.2	△ 18.5	15.1
非製造業	△ 15.9	△ 16.3	△ 10.5	△ 10.8	△ 21.5	△ 3.6	△ 5.9	0.0	△ 3.2	△ 1.3	△ 16.9	0.6	△ 8.0	△ 3.1
建設業	20.0	△ 12.5	12.5	△ 6.7	6.3	△ 6.7	△ 6.3	6.3	8.3	0.0	△ 10.0	10.0	16.7	△ 4.2
卸売・小売業	△ 20.5	△ 20.0	△ 14.3	△ 15.0	△ 24.3	0.0	2.5	5.6	4.7	2.1	△ 9.8	8.2	△ 18.0	△ 6.3
運輸業	△ 30.0	△ 33.3	△ 33.3	△ 25.0	△ 50.0	△ 22.2	△ 33.3	△ 37.5	0.0	△ 9.5	△ 41.2	12.5	△ 6.3	0.0
サービス業等	△ 27.8	△ 5.0	△ 10.5	0.0	△ 27.8	0.0	△ 10.0	0.0	△ 12.3	△ 1.4	△ 17.9	△ 9.3	△ 9.7	△ 1.4

3. 経営上の問題点

経営上の問題点を複数回答で尋ねたところ、「求人難」が最も多く、続いて「原材料（仕入）高」「設備老朽化」となっている。「求人難」は16期連続で1位となった。

長期的傾向としては「原材料（仕入）高」、「賃金上昇」といったコスト関連の項目が徐々に順位を上げている。



【業種別回答数及び構成比】

業種	回答社数	構成比
全業種	313	100.0%
製造業	150	47.9%
基礎素材型	53	16.9%
加工組立型	43	13.7%
生活関連型	54	17.3%
非製造業	163	52.1%
建設業	24	7.7%
卸売・小売業	50	16.0%
運輸業	16	5.1%
サービス業等	73	23.3%

【7業種区分】

製造業	
基礎素材型	木材・木製品製造業(家具を除く)、パルプ・紙・紙加工品製造業、化学工業、石油製品・石炭製品製造業、プラスチック製品製造業、ゴム製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業
加工組立型	はん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、業務用機械器具製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業
生活関連型	食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、家具・装備品製造業、印刷・同関連業、なめし革・同製品・毛皮製造業、その他の製造業
非製造業	
建設業	総合工事業、建築業、土木業、職別工事業、設備工事業
卸売・小売業	飲食料品、一般商品、繊維・衣料品等、建築資材、金属材料、機械器具等の卸売・小売り
運輸業	陸運、海運、空運、倉庫業、荷役業ほか
サービス業等	情報通信業、不動産業、物品賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育学習支援、医療・福祉、機械整備ほか

企業経営動向調査概要

- ① 調査時期：2019年3月8日～2019年3月29日
(毎年3・6・9・12月実施)
- ② 調査事項：業況、受注高、生産高、売上高、在庫高、資金繰り、銀行借入、設備投資、雇用、採算の各項目別BSI、設備投資目的、採算の増加・減少要因、経営上の問題点
- ③ 調査方法：郵送によるアンケート
- ④ 調査対象：県内に本社または主工場を持つ主要企業626社
- ⑤ 有効回答率：50.0% (有効回答数313社)

(百十四経済研究所 村尾・森)